

## 「東日本大震災」緊急支援について

3月11日に発生した東日本大震災でお亡くなりになられた方へのご冥福と被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) の賛助会員、パートナー会員の方の中にも被災された方がおられました。大震災の被害は時間が経つごとに明らかになっています。PHJでは、被災された方々に対する緊急支援募金を3月15日に開始いたしました。頂いた募金は下記の目的に使われます。

### 【募金使途】 社団法人 全日本病院協会\*による 被災地域への医療救護班派遣費用等

全日本病院協会 (全日病) の災害対策本部は3月14日設置と同時に福島県いわき市、翌3月15日には宮城県気仙沼市へ医療救護班を派遣。3月18日までに12チームを両市へ派遣しました。今後継続して宮城

県や福島県への派遣を検討中です。

なお医療救護班は医師1名、看護師2名、事務1名の4名単位で構成され現地での医療支援とともに避難所における医療支援・後方医療施設への患者の移送調整作業も行っています。この活動は日本医師会と共同で行っています。 (2ページに続く)



いわき市に派遣された医療救護班 3月14日撮影

## 巻頭言

## ピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) と製薬産業



PHJ理事  
庄田 隆

日本製薬団体連合会会長  
第一三共株式会社代表取締役会長

はじめに、今回の東日本大震災で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された方々・地域の日も早い復興を祈念申し上げます。

日本製薬団体連合会 (以下、日薬連) は、研究開発型製薬企業の団体である日本製薬工業協会、OTC医薬品の日本 OTC 医薬品協会などをはじめ、33の製薬団体で構成される連合会です。私どもは、新薬の研究開発や患者さんに必要とされる医薬品の安定的な提供などを通じて、日本をはじめ世界の人々に貢献したいと考えています。

振り返ってみますと、日薬連は、PHJの前身である「プロジェクト HOPE ジャパン」が設立された1997年から、歴代の会長が理事をお引き受けしており、私で7人目となります。当初は製薬企業20社が個別に賛助会員となる形で、翌98年以降は日薬連として、定期的なご支援をさせていただいております。

この10年の間に、カンボジア、インドネシア、タイなどそれぞれの現地で医療支援活動に携わっている方々、そしてその活動を支えている事務局の皆様におかれましては、現地の方々の感謝の言葉や笑顔を通じて、活動の手ごたえを感じられていることと存じます。現地での活動報告資料を拝見させていただく度に、皆様の活動に敬服しております。さらに、PHJの活動方針が単なるお金や物資の提供ではなく「自立支援」を目指した現地に密着した活動であることや、いくつかの製薬企業が個別に、冠事業として各国にて現地事務所と共同で医療支援を行っていることも、NPOのあるべき姿として高く評価されるものです。

さて、日本においては、民主党政権のもとで「新しい公共」が政策課題として取り上げられ、寄附税制・NPO税制の改正などにより、市民・企業が支える公共の構築に向けた議論が進められています。我が国においてこのような考え方が広く普及すれば、国内における各種支援活動だけでなく、公衆衛生・医療水準がまだ十分には高くない国々に対する支援活動への理解も深まるものと考えられます。

今後、PHJの理解者・支援者の輪がさらに広がることを期待し、また、PHJで活動している皆様方一人一人の更なるご活躍を祈念して、ご挨拶といたします。

## 「東日本大震災」緊急支援について(つづき)

今後も多くの医療救護班の派遣が必要となるため皆様のご支援とご協力よろしくお願いたします。なお本支援活動についてはPHJのホームページ(<http://www.ph-japan.org>)にて随時最新の情報をお知らせします。

具体的な支援方法については3月22日、23日付けお願いをご支援者の皆様にお送りいたしました。またPHJのホームページでもご紹介しておりますが、クレジットカード決済、銀行振込、郵便振替があります。



いわき市での医療救護班 3月14日撮影 写真：全日本病院協会提供

### \*社団法人 全日本病院協会(全日病):

全国で2300以上の民間病院から構成し、被災地域には218の会員病院があります。PHJ設立以来各種のご支援・ご協力を頂いています。全日病の歴代会長はPHJの理事をつとめていただいています。全日本病院協会のURL: [www.ajha.or.jp/](http://www.ajha.or.jp/)

### 全日病 西澤寛俊会長(PHJ理事)からのメッセージ



当協会の災害対策本部による東日本大震災の被災地への医療救護班の派遣に対し、PHJが募金面で協力して下さり、誠に感謝しております。被災地の方々に適切な医療救護を提供するとともに復興の礎になることを願っています。ご支援者の皆様のご協力をお願いいたします。

《今回の募金活動は米国の医療支援団体 Project HOPE <http://www.projecthope.org/> と提携し、米国からの医師の派遣も検討しています。》

## タイー外務省補助金、子宮頸がん・乳がん検診推進事業で活躍するヘルスポランティア

「より多くの女性に検診に来て欲しい」。これが、タイで子宮頸がん・乳がん検診促進事業を実施しているPHJ職員の思いです。そのために欠かせないのが、女性住民に検診に来るよう促すヘルスポランティアの存在です。このヘルスポランティアとは、各村から数名ずつ選ばれた人達のごことで、医療行為こそ行わないものの、住民の様々な生活支援を行っています。住民は、何か困ったことがあると、このヘルスポランティアを訪ね相談に乗ってもらいます。そこでPHJは、まずヘルスポランティア自身に子宮頸がん・乳がんの正しい知識を知ってもらおうと、チェンマイ県サラピー郡・サンカンペン郡の829名のヘルスポランティアを対象に、研修を実施しました。この研修では、講義形式でがんに関する知識を伝えるだけでなく、実際に一人ずつに乳房モデルを渡し、看護師やPHJスタッフが丁寧に指導していきました。

この研修に参加したヘルスポランティアは何を感じたのでしょうか。10年以上ヘルスポランティアを続けているという方々にインタビューをすることができました。彼女たちは、今までがんに関する研修を受けたことはなく、

住民にがんのことで相談されても上手く話せなかったそうです。「PHJの研修で自信がついた。がんの早期発見のためにもぜひ検診を受けるよう住民に伝える」と意気込みを話してくれました。

ヘルスポランティアが、この研修で得た知識を基に、住民にがん検診への参加を促す。住民が検診を受けに来たら、今度は看護師が、がんに関する更なる知識を伝え、子宮頸がん検診や乳がん触診を行い、今後も定期的に検診を受けるよう指導する。このような一連のサイクルづくりを、私たちPHJは行っています。今後のヘルスポランティアさんの活躍に期待したいところです。(東京事務所 武長)



乳房モデルを使い、自己触診法を伝える PHJ職員



感謝の意を示すヘルスポランティア

## インドネシア—ギアーニア病院での第4回超音波研修

聖マリアンナ医科大学病院 臨床検査部 超音波センター  
桜井 正児

2011年1月17日から30日インドネシア・バリ州のギアーニア病院の救急棟で超音波検査の研修指導を行ないました。この季節は雨季でどんよりと曇った日が多く、ときおり太陽が顔を覗かせます。今回は4回目の研修で、前回まで初めから連続して参加された先生の中で特に熱心で優秀だった2名の先生をアシスタントとして、今回新たに参加された診療所の先生への研修を手伝ってもらう形で始まりました。超音波装置も2台使用し、1日30名近くの患者



アシスタント医師による研修

さんの検査を行い、時には昼食の時間が1時間遅くなることもありましたがみな真剣で時間の経つのも忘れて熱心に研修を受けていました。現地

の飲料や調理に使用する水の影響からか、毎日必ず多くの尿路結石の患者さんを検査しました。また虫垂炎など救急棟や診療所の先生たちが日常遭遇する機会の多いケースを繰り返し研修することができたと思います。今回新たに2名の先生にアシスタントとして研修者に指導する立場の経験を積んでいただいた事は、今後ギアーニア病院が中心となって超音波診断をバリ全体の病院に広めるという我々の掲げた目標に、大きく前進できたと実感しました。このような将来を見据えた企画を作成し、病院や支援している地域全体のことを真剣に考え行動しているPHJインドネシア所長 伊藤美夏さんの愛情に触れ今回も感動しました。研修指導の機会をいただきましたことに対し関係の方々へ深く感謝申し上げます。



研修風景

### 五月女理事



### Vol.2 <留学生今昔物語>歴史を学ぶ(知識)から歴史に学ぶ(教訓)へ

ちょっと昔の話です。第2次大戦後の疲弊していた日本は、国際社会から財政支援、食糧・医療支援など多くの援助を受けましたが、その主な教育支援としてフルブライト米国上院議員(当時)により創設されたフルブライト奨学金がありました。それにより多くの日本の若き人材が渡米し、フルブライト留学生だけでもその総数は6000人を超え、そしてこれらの留学生たちは後に各界で活躍、日本の復興に貢献したのです。



遣唐使船

さて、かなり昔の話です。西暦630年、舒明天皇により犬上御田鎌が遣唐大使に任命され、大唐帝国に第1回目の遣唐使が派遣され、以降894年まで15回に亘り派遣されたのです。遣唐使一行は、遣唐大使など外交官の他、水夫、技術者、医師、音楽隊などが乗船していましたが、実は多くの留学生・留学僧(空海・最澄など)が同行し、総数600名の大編成でした。15回の派遣で約1万名が渡唐し、医学、化学、建築学などを修め帰国、その後の日本文化発展の

礎となったのです。日本は外国の文化と日本古来の文化とを融合させ、更なる素晴らしい平安文化を開花させたのです。

唐という当時の世界的な大帝国は、その勃興(618年)から滅亡(907年)までの290年間のほとんどの期間に当たる260余年間、日本からの留学生を受け入れ面倒を見続けてくれて、先進国としての義務と責任(ノープレス・オブリージュ)を果たしてくれたのです。

今、日本は経済的にも苦しい時代を迎え、国際交流や国際協力を行う余裕などはないとの声も聞かれます。しかし世界の歴史の中で、日本ほどその恩恵を受けた国はないのです。だからこそ、国際社会で生きていく我々日本人は、先進国としての責任を果たし、諸外国との相互扶助、相利共生の社会を築く努力が大切なのです。「歴史に学ぶ」気持ちを持ち続けたいものです。



五月女光弘(さおとめみつひろ)…  
外務省初代 NGO 担当大使、元  
命全権大使、文藝春秋ベストエッセイストの一人、PHJ 理事他。

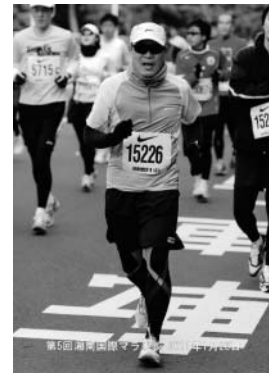
## 会員のひろば

### 「1キロ、1キロに思いを込めて」

館石 昌紀(個人会員)

あるマラソン大会で骨髓バンクへの登録の呼びかけをランニングシャツに書き込んで走っているランナーがいました。さりげない呼びかけに応えたいと思いましたが、骨髓バンクへの登録は年齢オーバーでダメでした。以前 PHJ の呼びかけに対して何気なくタイの医療機関にささやかな寄付をした所、病院長からの礼状と子ども達の写真が送られてきました。子ども達は何らかの病気や障害を抱えているにも拘らず健気にとても明るい顔で笑っていました。何気ない寄付でもこんなに喜ばれるならば、その子ども達のためにもっと役に立ちたいという気持ちがこみ上げてきました。その場限りではなく、日常的に感謝と奉仕の心を持ち続けられる活動はないだろうか、と考えていました。私は今健康でランニングを楽しんでいます。その楽しさをおすそ分けする気持ちに感謝の心を添えて、支援を必要としている

人々のお役に立てれば、と思い、大会に参加して走った1キロごとに10円をプールするというランニング募金を思いつきました。去年は16の大会に参加し479キロを走りました。マラソンの途中で気持ちが萎えて棄権したと思った時、1キロ10円の約束を励みに走り通したこともありました。今年はランニング仲間の2名が「1キロ10円ランニング募金」に参加してくれています。3月11日の東日本大震災により多くの大会が中止となりましたが、その理由は用意された物資を優先的に被災者支援に向けるためです。被災者の救済と復興を心から願うとともに、私にできることの一つとしてこれからも1キロ1キロに思いを込めてランニング募金を続けてゆこうと思います。



## 第42回運営委員会を終えて(オブザーバーの声)

2011年2月17日(木) 5:00-7:30pm 日本GE株式会社様の会議室をお借りしてPHJ各国事務所の活動報告と出席者からのご意見や提案を伺う会を開催しました。各国所長の活動報告に続き:(1)カンボジアでは出産時の搬送システムについて具体的なプランがあるのか、(2)インドネシアで栄養給食を村人の生活に取り組むための野菜畑の計画、(3)ベトナムでのエイズ教育の終結等について活発な質疑応答がありました。

出席の方々から次のコメントをいただきました。アステラス製薬、総務部 CSR 室長、太田運営委員は「水問題に進展はあったのだろうか、宗教指導者との交渉はどうなっただろうと、ワクワクしながら運営委員会に参加しています。澁刺とした女性所長さん達から元気のパワーを貰える会を、毎回楽しみにしています」また

オブザーバーとしてはじめて運営委員会に出席された富士電機ホールディングス、CSR 企画部長



山中様は「昨年、インドネシアの離島に弊社の太陽光発電システムなどを寄贈した折に、現地に行き実情を知ることができました。他国でも現地に根ざした活動を推進されていることを知り、共感できました。」

第43回運営委員会は5月19日(木) 5:00-7:30pmに開催いたします。

## 2011 チャリティーカレンダー募金報告

2011 チャリティーカレンダー募金は昨年12月末に終了いたしました。皆様のあたたかいご支援とご協力により、合計3,363,773円(3月15日現在)が集まりました。本当にありがとうございました。

頂いた募金は、タイ、インドネシア、カンボジアの母子保健分野での支援活動に充てさせていただきます。

PHJのチャリティーカレンダーは10年続いています。日本の子供達の作品掲載は今回が初めて。武蔵野市立境南小学校の「いとすぎ学級」(武蔵野赤十字病院

内)、社会福祉法人おおぞら会「あすはkids」のご協力により、素晴らしい作品が集まりました。またいつも協力いただいているタイ、インドネシア、カンボジアの小学生や病院に通っている子供たちにも、絵を描くだけでなくおとぎばなしを聞いたり知ったりする良い機会ができたのではないのでしょうか。さて、2012チャリティーカレンダーの計画も着々と進んでいます。今年もご期待ください!



カンボジアで絵を描く小学生